

都市高速 橋守の結成について

福岡北九州高速道路公社 正会員 ○藤木 修 福岡北九州高速道路公社 片山 英資
福岡北九州高速道路公社 羽野 清敏 福岡北九州高速道路公社 鶴田 一三郎

1. はじめに

道路構造物の維持管理の分野は、未成熟な部分が多く、道路管理者に技術的な判断を要求されることから、業務に従事する職員の技術力向上は、合理的に維持管理を実施していくうえで、急務な課題といえる。そこで、以前、国鉄で実施されていた橋守の精神に着目し、職員が都市高速に愛着を持って維持管理の業務に接し、構造物を繰り返し「みる」という直接的な技術力の向上と、道路管理者としての意識の向上を目的とした「都市高速 橋守」を結成することとした。

2. 都市高速 橋守の結成から実施

都市高速 橋守は、専属の職員ではなく、維持管理関連の業務に従事する職員に、通常業務に加え橋守として任命し、平成23年7月に総勢37名で結成した(写真1)。この都市高速 橋守には、愛着をもって構造物を繰り返し「みる」ために、全員を12の班に分け、各班に都市高速の全長約100kmを概ね10km程度毎に分割して、各区間に担当班を割り当てることとした。この割り当てられて区間は、基本的には同一班が継続的に担当することとなり、各班での責任を持つこととした。

都市高速は、路線の多くが一般街路上の高架構造であり、一般街路から高架橋を見上げることができることから、都市高速 橋守の活動は、一般街路を徒歩で移動しながら高架橋を見上げる遠方目視により、土木構造物・施設構造物の異常、変状を点検し、記録することとした(写真2)。また、一般街路での移動中には、都市高速のサービスマンとして、できる範囲でのゴミ払いなどを実施することとした。

初年度の目標としては、各班に割り当てられた範囲(概ね10km)を、年間1回、遠方目視点検を実施することとし全体を把握することを目標とした。

なお、この遠方目視点検は、従来から外部業者により点検委託業務の一部として実施していたものであり、初年度は、今後の点検精度の比較などに用いるために、点検委託業務と橋守で重複させて実施した。

3. 都市高速 橋守の成果と改善点

都市高速 橋守の活動は、班毎にスケジュール調整を行い、年間通してそれぞれが遠方目視点検を実施し、各班とも平均で月1回、年間5回程度の出動の実績があった。そして、年間の活動報告として、年度末に橋守全員でのワークショップ形式の橋守報告会を実施し、多くの橋守の意見を集め、成果の報告と初年度の反省を踏まえた次年度以降への改善提案などを行った。

1) 成果1：遠方目視点検による損傷状態、構造物の把握

初年度の活動では、各班とも橋守として出動し、構造物の損傷状況を把握することができた。その損傷の中で緊急的対応が必要な案件については、速やかに補修担当部署に対応を依頼できた。また、簡易な作業であれば、その場で自ら対応することで、第三者被害を回避することができた。写真3は、街路上につる草が垂れ下がっており、走行車両に影響を及ぼす可能性があったため、その場で自ら処置をおこなった。今回の都市高速 橋守の実施により、構造物および損傷を現地で「みる」ことで、損傷状況だけでなく構造物の置かれている環境状況や高架下の状況などを、職員が把握することができた。



写真1 - 橋守スタイル



写真2 - 橋守の実施状況



写真3 - 自らの処置で被害を回避

キーワード：人材育成、維持管理、合理化、都市高速道路、橋守

連絡先：〒812-0055 福岡市東区東浜 2-7-53 福岡北九州高速道路公社 保全施設部保全管理課 TEL092-631-3285

2) 成果2：世代および部署を越えた技術の継承

これまで、土木・施設それぞれの部署で構造物・施設付属物を管理しており、部署を越えて損傷に関する意見交換などは少なかった。今回、土木担当者と施設担当者が、同じ橋守班として活動することで、現地で実際の物や損傷を確認しながら意見交換を行い、部署間を越えて、お互いの理解度の向上に寄与することができた。また、都市高速 橋守に、ベテラン技術者と若手技術者を混在させたことで、これまでの図面や資料を用いた座学での技術的な継承ではなく、現地で構造物を直感的に感じながら、効率的に技術の継承を行うことができた。また、ベテラン技術者も現地で構造物を見ているうちに、過去の経緯や建設時の特殊事情などの記憶が甦り、その内容についても若手技術者に継承することができた(写真4)。



写真4 - 現地での技術継承

今回の都市高速 橋守の活動により、複数のメンバーで同時に、構造物を「みる」ことで、部署や世代を越えて職員のコミュニケーションを取ることができ、技術の継承が図れるプログラムとして適当であるといえる。

3) 成果3：地域の方々とのコミュニケーション

都市高速 橋守では、遠方目視点検として一般街路を徒歩で移動することから、必然的に地域の方々とのコミュニケーションも多くなる。そこでは地域の方々から、橋守の当日では確認できなかった雨天時に発生する排水管からの漏水情報や、夜間時の街灯の電気切れなどの、損傷や劣化に関する有益な情報を得ることができた。

今後、地域の方々と密にコミュニケーションを図ることで、維持管理の重要性などを理解していただくことにつながると考える(写真5)。



写真5 - 地域のコミュニケーション

4) 次年度以降への改善点

次年度以降の改善点として挙げられたものの中に、初年度は各班で点検要領に従い損傷判定を行っていたが、橋守全体での損傷の評価・診断のバラつき修正、レベルアップを図る必要や、損傷の大きな要因である漏水確認するには、極力、雨上がりに橋守活動を実施することが望ましいなども挙げられた。これらの意見については、次年度以降に取り入れていく予定である。

4. 都市高速 橋守の社内への展開

都市高速 橋守は、維持管理に従事する職員で結成し活動を行ってきたが、さらなる展開として、事務職員を含めた社内向けの橋守体験イベント「都市高ウォッチング」を開催した。この都市高ウォッチングでは、通常、構造物の維持管理に接していない職員が、構造物を身近に感じることで、構造物への理解向上と道路管理者としての意識を高めることを目的とした。

都市高ウォッチングは、1日の限定で、実際の都市高速 橋守で回っているコースの一部を、社内の公募により募った役員から事務職まで16名の職員で実施した。また、現地での橋守終了後に、参加者全員で気づいた点などのディスカッションし今後の橋守についての意見や改善点を提案した。その結果、これまでの都市高速 橋守の構造物の点検という視点ではなく、高架下の管理地の状況(不法侵入、ゴミの散乱)なども見て周ることや、都市高速のランプ入口に設置されている標識の表示内容なども確認することなどの、都市高速全体の視点として有意義な意見が出された(写真6)。今後、これらの意見も取り入れて社内全体に広めていく予定である。



写真6 - 参加者ディスカッション

5. これからの都市高速 橋守

今回、都市高速 橋守を実施したことにより、職員の意識改革という面からも意義のある活動であり、さまざまな付加価値を生み出す活動であることがわかった。今後、改善点や意見を踏まえ、継続的に都市高速 橋守を実施することで、高い意識を持った職員により、都市高速という重要な構造物を良質な状態で将来へ引き継いでいく所存である。

そして、この都市高速 橋守という活動を、広く一般へ広報することで、都市高速の維持管理の重要性や職員の取り組み状況などを、一般の方々に広め、街から愛される都市高速を目指していきたいと考えている。